

パリ市Z.A.C.(国土整備対象地域)における 「マスターアーキテクト」制度に関する研究

A study of the (Master Architect) in Z.A.C.
(Zone d'Aménagement Concerté) of Paris

松 本 裕
hirosi MATSUMOTO

歴史都市パリでは現在、町並みの保存と並行して現代的な都市計画が盛んに試みられている。中でもZ.A.C.(Zone d'Aménagement Concerté)計画は、一連のグラン・プロジェとともに、19世紀のオスマンによる都市大改造以来の最も重要な都市計画の一つに位置付けることができる。グラン・プロジェが国家規模でのモニュメンタルな都市計画であるのに対し、Z.A.C.計画は都市型住居の整備に主眼をおきながら新しいパリの都市景観の創造を目指す地域計画である。その分Z.A.C.計画においては、歴史都市パリさらには各地域に固有の「場所性」や「歴史性」といった概念が重要な要素として意識され計画に盛り込まれている。その際、「場所性」や「歴史性」は人間によっていわば可能性として感得され、制作行為を通して初めて人工の場所に顕現されるという観点から、アーキテクト・コーディネータ (architecte coordonnateur)の果たす役割に着目し、その具体的な役割と成果の一端を分析した。

本研究で取り上げた、Z.A.C. - Tolbiac地区はZ.A.C.最大のセーヌ川左岸再開発計画の中心であり、フランス国立図書館 (Bibliothèque de France) が先駆けて建設された。この図書館の両側T1・T3地区を手掛けたのがアーキテクト・コーディネータであるロラン・シュワイツァー (Roland SCHWEITZER)氏である。アーキテクト・コーディネータの主要任務は、第一に、パリ市の開発主旨に添ってマスタープランを作成することであり、都市景観の構成および建築物と公共空間の形態を決定し、区割りを提案する際のデータやプログラム、アクセスなどを統合、規定化することである。第二に、建築家・行政関係者等とのデリケートな会議を現場に至るまで続け、規定を遵守しながら、建築の表現手段を減じることなくかつ調和のとれた都市景観を形成することである。一方、当のアーキテクト・コーディネータであるシュワイツァー氏は担当地区におけるその役割を「P.A.Z.(Plan d'Aménagement de Zone)はセーヌ川左岸再開発における機能分配、公共空間およびインフラストラクチャーの輪郭を決定する。P.A.Z.の要求をカルティエ毎に読みとり発展させるためにアーキテクト・コーディネータがパリ市の承認を得て指名され、P.A.Z.において計画された異なるプログラムを統合しながらT1・T3の構成を決定する。また、契約規定書にその後の建築家の介入を適切に方向付けていくためのヴォリュームおよび建築に関する規定を行う。」と定義している。

この基本計画“Etude de Développement du P.A.Z.”ならびに現地調査・関係者インタビューを通じて明らかになったことは次のような点である。Z.A.C. - Tolbiac計画がパリにおける再開発として十分に意識されていることを、都市景観上の連続性と象徴性への配慮（既存広場とモニュメントとのヴォリューム関係を引用）、透視図的要素の重視、口の字型のプランニング等々に伺い知ることができること。また、要塞を隠喩的に参照し、その地理的規則性に倣り充填部分（Plein）と空洞部分（vide）を有効に配置することで「透け」と「間」が連続と切断の規則的なプランニングとして演出されたこと。結果として、断絶されていた既存街区とセヌ川とのコミュニケーションの回復が計られ、一つの新しいパリの都市景観が創出されたこと。